

富士紀行 (25) VIEW POINTS on YAMANASHI PREF. (H12/10/13 記)

最近富士学校を研修・見学で訪れる人が多い。冷戦時代であれば考えられなかったようなロシアや中国の高級軍人の来訪もある。学校長表敬の祭に使用される応接室は、北側にあるが、この部屋からの富士の眺めもよい。

校長は最高のご馳走は富士山であると、客を、富士山を眺められる下座に敢えて案内している。記念写真は、天気が良く富士山の全景が見える場合は屋外で富士山を背景に、天候不良の場合でも応接室の赤富士の絵をバックにしている。

富士山は登るものではなく、眺めるものだという人もいるが、富士紀行 002 号において、静岡県の VIEW POINT を紹介したが、山梨県側はどうなっているのでしょうか。これぞ、決定版という資料は残念ながら発見できなかった。「地球の風富士と 5 湖」(日地出版)に記載されている「主な撮影ポイント」を紹介しよう。

- ① 山中湖の北岸・東岸 ② 河口湖の北岸 ③ 西湖の北岸 ④ 精進湖の北岸
- ⑤ 本栖湖の北岸(5千円札の富士山) ⑥ 田貫湖(ダイヤモンド富士)
- ⑦ 湯之奥猪之頭林道 ⑧ 忍野八海

24 号でも書いたが、三ツ峠や大菩薩連嶺から見た富士山も最高である。どこからが最高と言うことはない。富士山はどこから見ても最高である。鳴沢村の村長は鳴沢道の駅からの眺めこそ最高と胸を張っておられたし、長田小山町長は富士は金太郎と共に小山町のシンボルであるとの強い信念を持っておられる。

富士山といえば、小生の茅屋が埼玉県の新座市にあるが、マンション 7 F のリビングからは、冬の朝・夕や台風一過等の空気清澄な日には遙かに富士山を望むことが出来る。真白き雪を抱いた富士や夕日に赤く映える富士、そして旅客機のきらきらと飛行機雲が富士山頂を過ぎるのを眺めることが出来る。